

まえがき

令和3年1月、中央教育審議会から『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』と題した答申が出されました。そこでは、先行きが不透明で変化が激しく複雑な時代に立ち向かう子供たちの育成を担う学校教育の姿が提言されており、様々な課題を解決するため、従来の取組を新しい見方・考え方で捉え直し、創造することが求められています。そのためにも、これまで以上に教員としての崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励む必要があります。

本県における研修員制度は、昭和50年度に始まり、昨年度までに修了した研修員は延べ578名に上ります。本研修での学びを経験した各教員は、各学校・各地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

本年度の研修員研修においても、本県が策定した「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた修養を土台とし、今日的教育課題の解決を図るべく研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的として実施しました。

研修員によるこの1年間にわたる研究と修養の成果の一端を「令和3年度研修員研究集録（第47集）」として作成しました。研究成果については、本年1月29日に開催した令和3年度和歌山県教育センター学びの丘研究報告会において報告したところで。各学校・各地方においては、本研究集録とともに、当センターのウェブページに掲載している資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

令和4年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 西 嶋 淳